

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	池永
日 時	平成28年4月8日(金曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 30 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者 出席者			
事務局	門局長、鈴木係長、池永		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 -

会 議 の 概 要

1 開 議

[事務局長 異動に伴う挨拶]

2 案 件

(1) 病院事業について

< 馬場委員長 >

市立病院を利用しない人のニーズを把握する必要があるという意見が前回の2月16日の月例で出ていた。このことに対し、どのように取り組んでいくか。そもそも市民ニーズを把握する目的は何か。

< 酒井委員 >

財政が厳しい中、一般会計から繰り出しをしている。市立病院は市民にとって必要なものなのかどうかを踏まえなければいけない。今後理解を得るためにもニーズを把握し、市民の意向に沿った方向で運営していけるように提言ができればと考える。

< 福井委員 >

アンケートをとるとのことだが、どこまで話が進んでいるのか。議会がとるのか、市立病院がとるのか。

< 馬場委員長 >

それを含めて意見を聞きたい。今までの議論は、診療科を含め、市立病院が十分稼働していないのではないかとということである。アンケートをとり、利用率を上げるとか、利用しない人の状況を把握してはどうかとのことである。

< 酒井委員 >

市立病院で院内アンケートをとっていたことがあるが、それでは病院に来ない人の意見は聴けない。病院改革プランでは、アンケートをすと言いながらやっていなかった。病院を利用しない人のニーズを聴かないと経営は考えられない。市民ニーズを把握するような調査を執行部に求めていくのか、アンケートにこだわらなくても、議会として何か調査を考えていくのかというのを話し合う段階である。

< 馬場委員長 >

病院に来る人だけでなく、不特定多数の意見を聴こうということである。具体的にどうするか。酒井委員の意見は、我々がアンケートをとるということか。

<酒井委員>

アンケートを作るには大変な知識がいる。まずはどのようなことを知りたいかという目的を明確にした上で、そのために何をするのか決めるのが良い。市立病院にどのくらいコストがかかっているかの状況を伝えながら、市民との対話が生まれるような形で話を聴くのも良い。アンケートに限定しなくても、手段についても話し合っていきたい。

<馬場委員長>

議会として、市民の意見を聴取する場を設けるということか。

<酒井委員>

そうである。まずは目的を明確にしてからである。

<福井委員>

アンケート作りに一足飛びにいけない。目的は、病院に行っていない人が、何が問題で行っていないのかを掴むことだと考える。病院に対する誤解等があり、急性期病院だということなど、いろいろなことが市民に伝わっていない。おそらく現状でアンケートを作っても、あまり的確なことは聴けない。委員会単位のわがまちトークなど、ディスカッションの場を設けて、そこで問題点や市民の誤解を抽出してはどうか。我々も、もう少し勉強してからでないとアンケート作りにはかかれない。

<富谷委員>

以前わがまちトークで、病院で誤診されたという信憑性のないことを言われたことがあった。好きなことを言われると難しい。それを危惧する。アンケートは確かに難しい。アンケートではなく、何か違う形でニーズを把握できればと考える。ただ、わがまちトークだと自由に意見を言われ、我々もそれに対して答えることができないので、難しい。

<小川委員>

市立病院の患者へのアンケートも大事であるが、千代川町なら南丹病院に行ったりされる。なぜ市立病院に行かないのか聴いてみたいが、南丹病院でアンケートをしようにも、亀岡市民以外も利用されているので難しい。

<福井委員>

市立病院の利用者の分布が知りたい。委員長から申し入れてもらいたいがどうか。

<馬場委員長>

今までそのような資料はあったか。

<事務局>

市立病院に行った際、京都府の資料に、利用者の流れの資料があるという話はされていた。

<馬場委員長>

市立病院の個別の資料はないかもしれない。アンケート項目を作るのは難しいので、常任委員会として、市立病院への思いを語ってもらうわがまちトークを開いて、その上でまた相談してはどうか。

<福井委員>

富谷委員が言われたように、確かに怖い部分もある。そのような人が会話に入ってくる恐れもある。慎重に考えなければいけない。

<酒井委員>

わがまちトークだと、議員が答えなければいけないと誤ってしまいがちである。無

茶なことを言われる人もいるかもしれないが、事実関係の確認ができないので、説明が納得いかなかったのですね、などという感じでファシリテートできれば良いのだが。うまく意見を引き出し、こちらがその場で返事をするのではなく、広聴として、聴くことに徹するような形でできればと考える。先ほど言われた地域別の情報など、病院の情報をできる限り出してもらった上で検討する必要がある。

<小川委員>

町別・診療科目別の利用率などの詳しい情報を見た上で検討したい。

<馬場委員長>

市立病院の方面別の患者数、診療科目ごとの状況について、知りたいという意見があったがどうか。

<福井委員>

委員会として、ファシリテーターを入れてやってはどうか。議員が直接受け答えすると炎上する。ファシリテーターのあてはある。

<馬場委員長>

呼ぶ対象はどうするのか。

<福井委員>

これから考えてはどうか。

<平本委員>

方面別患者数の資料で、利用が多い所が分かる。その自治会でするのはどうか。

<馬場委員長>

東部地域の利用が多く、千代川周辺は南丹病院が多くなると考える。市民ホールではどうか。グループに分けて、各委員がグループに入っては。

<酒井委員>

病院の満足度をどう上げるかということより、亀岡市に公立の病院が要るのかどうかを見ていくためには、利用が少ないところの話を知りたい。市立病院がなぜ課題として取り上げられているか、財政的なことを含めて市民に伝えられるような資料をまとめたいという必要がある。

<馬場委員長>

市立病院の方面別利用実態の資料、診療科目ごとの状況についての資料を請求する。委員会としては、場所を問わず1カ所ですのか、方面に分けるのか。一番遠い場所ですのか。

<富谷委員>

市民ホール1カ所だと、よほど意見が言いたい人しか来られない。地元でもいろいろな意見を聞く。言いたいことや要望はたくさん持っておられるが、わざわざ遠くまで行って言われるとは思えない。そのような場を持つことは有効であるが、1カ所、1回だけで終わらせるのは不可能である。何カ所か身近な場所でする方が良い。

<福井委員>

書式を考えて、各委員が持って帰って、地元で声を集めてくるのはどうか。いきなりわがまちトークを開くのは難しい。各委員が集めるので、性別や居住地域など、聴く対象がある程度分かる。全員はカバーできないが、そういう意識を持って何人か、5人なら5人、10人なら10人に聴いてくることからスタートしてはどうか。

<馬場委員長>

福井委員の意見も踏まえ、次のようにまとめたい。市立病院の利用状況・診療科目の利用状況を当委員会として資料請求する。視察に行く武雄市でどのようなアンケートをとったのかを調査し、それを受けて、福井委員の言われた内容について、それ

を皆が持って帰って集めるのが良いのか、無作為でとるのが良いのかを含めて検討する。そういう方向で引き続き検討課題としてはどうか。

<福井委員>

「市議会議員まちなかインタビュー」のようなものである。これは、ある程度項目がなかったら聴けないので、インタビュー項目の検討が必要である。これならアンケートとは違うので、ここである程度考えられるのではないか。それを集計し、アンケートをするのか、わがまちトークをするのか検討しては。

<酒井委員>

いろいろな意見を聴いて、委員会で話し合っって何か結論を出して「こうすべきだ」ということをイメージしているのではない。「これだけお金がかかっているなら不要」と言う人もいれば、「頼りにしているので絶対必要」、「今使っていないけど公立病院はないと困るからぜひ残してほしい」と言う人もいる。いろいろな意見があることを市民に見えるようにした上でどうするのか。これだけお金がかかっているが、残すにはこういう形にしなければならないという共通認識を市民と持っていけるような活動になればと考える。

<馬場委員長>

そもそも市立病院の値打ちがあるのかないのか。東部の人や旧町の高齢者からは、あって嬉しいという意見も聴く。バスを出してほしいという意見も聴く。そういうことを含めて、市民の意見をざっくばらんに聴いていくということで進めて良いか。市立病院から情報をもらいながら、福井委員が言われたように、我々が市民のところに向いて意見を集めていく。その前提として武雄市の取り組みを調査してくるということが良いか。

<了>

<奥村委員>

救急搬送先について、市内の医者との連携が取れているのか。南丹病院を紹介しているのか、市立病院を紹介しているのか。

<事務局長>

医師会との連携もある中、市立病院に市内の開業医がどこの医療機関を主に紹介しているのかを聞くことはなかなか難しい。健康増進課が窓口で、地域医療連携の業務をしているので、市内の医療連携全体のあり方という形で聞いたら少し出るかもしれない。救急搬送の件は議会答弁にもあったので、資料としては出る。なお、意見交換会について、アンケート等を検討した後、再度市立病院に出席を依頼するのか。

<馬場委員長>

それはまだ確認していない。必ずするとは限らない。市立病院のレストランが撤退すると聞いたが、どういう状況になっているのか

<事務局長>

情報収集して報告する。

(2) 行政視察について

<馬場委員長>

別紙のとおり視察を計画している。ただ、都合により20日を17日に変更したいが良いか。また、変更により尾道市の受け入れができない場合は、正副委員長に一任で良いか。

<了>

<馬場委員長>

質問項目について事務局から説明を。

[事務局説明]

< 馬場委員長 >

これ以外に質問項目はあるか。

< 福井委員 >

武雄市民病院の紹介率が1.3倍ということである。何を1としたのか分からないが、亀岡市立病院の紹介率もこういう形なら出せるのではないか。

< 馬場委員長 >

この場合は、旧武雄病院の紹介率の1.3倍ということである。

(3) 議会だよりの原稿について

< 馬場委員長 >

広報部会の検討の結果、環境厚生常任委員会の3月定例会の報告ページが変更になったので確認いただきたい。事務局から説明を。

[事務局説明]

< 馬場委員長 >

意見はあるか。

[意見なし]

< 馬場委員長 >

校正の途中で広報的な視点から訂正が入る場合もあるが、広報広聴会議に一任するということで了承いただきたい。

3 その他

< 馬場委員長 >

今回は行政視察の振り返りを行う。6月1日(水)午前10時からでどうか。

< 了 >

< 馬場委員長 >

事務局から連絡はあるか。

< 事務局 >

行政視察の詳細については改めて連絡する。視察後は感想文等をお世話になる。

< 議事調査係長 >

市立病院のレストランについて、本日付けで撤退するとのことである。空いたスペースには地域連携室と、地域医療情報センター、これは包括の関係だと考えるが、その2つの部門が入る。地域連携室はこれまで2階にあったが、より市民が相談しやすいように1階に移設する。売店は存続するとのことである。また、厨房があるので、今後市民の意向を踏まえ、何らかの対応ができればとのことである。

散会 ~ 14:30